

第 1 回 防災科学技術研究所 成果発表会

「災害に強い社会をめざして」に300人を超す参加

初めての成果発表会

「災害に強い社会をめざして」と題する、独立行政法人に移行後、初めての成果発表会が、去る4月12日（金）に千代田区平河町の砂防会館で開催されました。

講演会の発表では、理事長による研究所概要に続き、高解像度大気・海洋結合シミュレーションモデルの開発、雪氷防災研究の現状と今後の展開、「地殻底部低周波微動」の発見、地震動予測地図の作成、地震防災への新たな取り組みについて発表が行われました。

遠山文科相、 村井防災担当相も出席

また、ポスター発表では、地震、火山、大雨・洪水、土砂災害、雪氷の各分野で14件の発表がありました。その他にパネル展示が7件あり、政府機関、地方自治体、研究機関、大学、一般市民など、研究所外からの参加者が300名を超え、発表会終了後の懇親会には、遠山文部科学大臣をはじめ、村井防災担当大臣にも出席頂く等、盛況に終わることができました。

多数の意見、反応も様々

発表会に参加していただいた人の主立った意見は次のとおりです。防災科研の活動内容がよく解った。液状化現象を簡単な道具で説明いただいたのが、大変解り易い。研究所の全体的な動きや世界における役割など、大枠を知ることができ、ポスターセッションでも十分フォローされており他の研究機関にも参考になったのではないかと。実務に直結した内容が多く、勉強になった。独立行政法人となって、1年間で組織の考え方が大きく変化した印象を受けた。社会にサービスしていく姿勢が見られた。...他方、成果が私たちにどのような面で生かされているのか、身近なラインから説明してほしい。専門的な話題の説明に発表者間のばらつきを感じた。メインターゲットになる聴衆がどのような層なのか不明である。会場に若い人が少なく、もっと若い層、特に学生に開かれた場所、発表会であってほしい...等の意見も多数頂きました。



早山理事より開会の挨拶

今後も、さらなる発展を

「災害から人命を守り、災害の教訓を生かして発展を続ける災害に強い社会の実現を目指すこと」を基本目標として、今後も防災科研では、多くの方々の意見を頂きながら他の研究機関と連携を深め研究を進めていきたいと考えています。



遠山文部科学大臣の挨拶。懇親会にて。

(問い合わせ先：企画部企画課
0298-58-1773)

石田瑞穂研究主監に 紫綬褒章

石田瑞穂研究主監が、紫綬褒章を受章されました。氏は、地震発生のメカニズムについて、30年以上にわたって研究し、三次元のデータ解析とプレート相互の作用を組み込んだ画期的な「関東・東海地域のプレート構造モデル」を構築したことが認められました。関東・東海地域は、1978年に地震観測の強化地域に指定され、当時、地震発生機構の解明や被害予測に必要なプレート構造については、フィリピン海プレート全体の運動を考慮せずに、二次元的に求められた震源分布のみでモデル化されていたため、合理性が十分ではありませんでした。氏は、球構造解析を導入した三次元速度構造プログラムと不均一な速度構造を導入した三次元震源決定プログラムを開発し、地震波速度構造、震源分布、地震発震機構解の分布を求め、さらに、プレートの運動方向を考慮し、海洋プレートの沈み込



有志による祝賀会にて

み方向に平行な鉛直断面上に、震源と発震機構解を投影するという新たな解析を行い、フィリピン海プレートの北東縁が太平洋プレートの上面に面的に接触しながら沈み込み、両プレート間の相対的運動により、地震を多発させるという画期的なプレートモデルを構築しました。この成果は、過去に起きた地震の解明や、近年発生した地震の合理的説明の手段として用いられ、将来の関東・東海地域で起こるであろう大地震の震源モデルや、震動予測に活用されています。特に、政府の地震調査委員会におけるデータ解析の基盤として活用され、社会資産の保全に寄与するとともに、国民生活の安全性の向上に大きく貢献しています。

(問い合わせ先：企画部企画課
0298-58-1773)